

SBS静岡健康増進センター座談会

教えて!健康

テーマ 知って防ごう!肝臓病

第1部 肝臓の働き、
脂肪肝と肝炎について

第2部 肝硬変、肝がんになったら

第3部 大切なのは健康づくり
～健診を意識して～

座談会参加者



静岡市立静岡病院 消火器内科科長

濱村 啓介さん

広島大学、東大大学院を経て、虎の門病院、三井記念病院、静岡県立総合病院医長、マイアミ大学リサーチアソシエイト、東大助教、静岡市立静岡病院消化器内科医長などの後、現職。日本肝臓学会の肝臓専門医、肝臓病指導医。



静岡県感染症管理センター長

後藤 幹生さん

1964年、大阪府生まれ。89年、京都大学医学部を卒業し、小児科医として静岡県や大阪府の市民病院等で勤務。2011年から静岡県に入職し、行政医師として保健所や、県庁疾病対策課で勤務。2020年より新型コロナウイルス感染症対策を担当。



SBS静岡健康増進センター

古賀 震

熊本大学医学部卒業、同大学院医学博士課程修了。熊本赤十字病院、米国コロロンビア大学医学部研究員、静岡県立大学教授などを経て現職。日本血液学会血液内科専門医・指導医。2018年から現職。

聞き手



フリーアナウンサー

長谷川 玲子さん

SBS静岡健康増進センター座談会

教えて!健康

テーマ 知って防ごう!肝臓病

第1部 肝臓の働き、脂肪肝と肝炎について

肝臓はさまざまな働きをする重要な臓器の一つです。医師に専門的な話を伺いながら、正しい知識を身に付け、予防を目指しましょう。第1部では肝臓の働きや肝臓病の初期段階について詳しく聞きます。

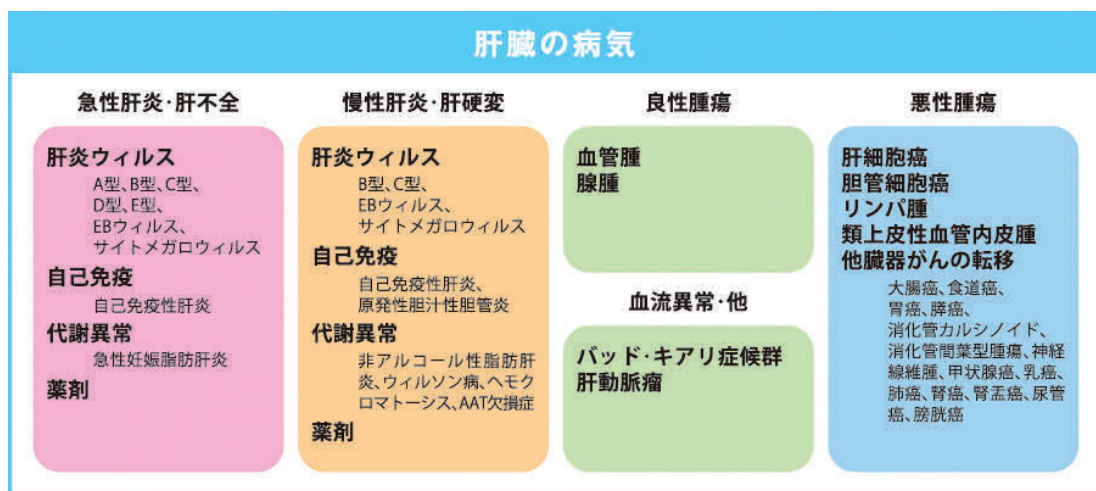
〈企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局〉

「肥満大敵」酒もたばこも控えて

長谷川 「沈黙の臓器」の別名を持つ肝臓ですが、無自覚のまま命に関わる病気に進行することがあるといわれます。肝臓は多くの役割を担う大事な臓器。今回改めて学びましょう。

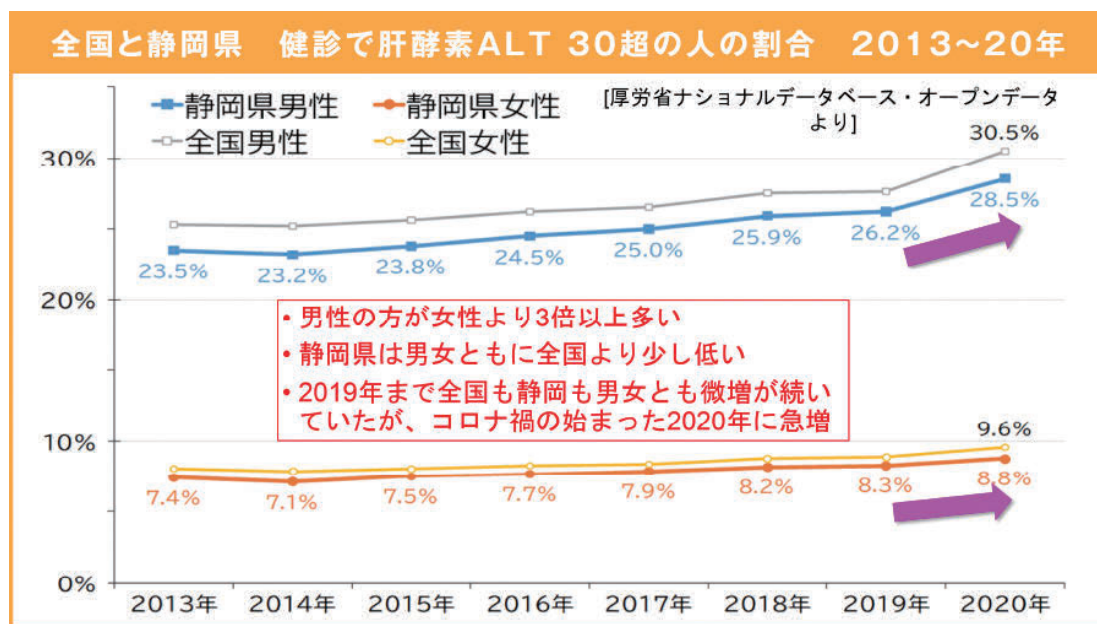
濱村 肝臓は体の中心に位置しています。栄養の代謝と貯蔵、有害物質の解毒のほか、食べ物を消化する胆汁を作る働きもあります。ところで、あらゆる臓器は一般に予備の力があり、有事の時に即応できるようになっています。例えば、日頃運転する自動車は通常、時速40km前後でしか走らないのに、スピードメーターは、たとえば、時速160kmまで出せることになっています。このくらいの余力がないと実は快適に走れないのです。人の臓器の一つ、肺の例では、普段500cc以下で呼吸をしているのに、肺活量は3〜4ℓあるのが普通です。肝臓も同じで、普段は一部しか使用していません。しかし、慢性肝炎を放置したり、飲酒をしたりすると、予備の力が知らないうちに減っていくのです。普段は症状は起こりませんが、肝臓が大活躍しなければならぬ状態、つまり、けが、手術、感染症などにかかったときに、余力のない肝臓では黄疸（おうだん）や腹水が生じてしまいます。これが、「沈黙の臓器」たるゆえんです。

臓器の病気は、一般に炎症と腫瘍に分類できます。炎症には急性と慢性があります。急性肝炎は生肉や衛生状態の悪い水を摂取した後に生ずるA型とE型、血液や体液に污染された器具や性交渉によって生じるB型、C型があります。B型は母子感染で慢性化し、C型は約7割が慢性肝炎に移行します。そのほか、脂肪肝や薬剤による慢性肝炎もあります。慢性肝炎には自覚症状がありません。20年、30年の長い年月をかけて徐々に肝硬変に移行し、末期になるまで症状が現れません。この間、だんだん肝細胞がんも発症しやすくなります。



長谷川 本県で肝臓の病気を持つ方はどのくらいいるのでしょうか。

後藤 B型、C型ウイルス性肝炎の治療には県から医療費が助成されます。この助成件数の統計によれば、B型肝炎は治療が継続するため、件数は増加しています。2022年には約2000人が助成を受け治療を続けています。C型肝炎は減少傾向で約300人です。また、肝がんの患者数は男性が女性の2倍多く、毎年700～800人が発症します。肝機能を示す一つにALT値があります。肝臓の細胞が壊れると血液中の濃度が高まるため、血液検査で確認できます。正常値は30IU/L以下です。実はコロナ禍以降、運動不足や自宅での飲酒量増加のためか、脂肪肝やアルコール性の肝障害の方が増加している可能性があります。



長谷川 康診断や人間ドックを受ければ、自身のALT値が把握できますね。では、SBS静岡健康増進センターの受診状況はいかがでしょう？

古賀 当センターの健診受診者は男女とも年々増え、健康への意識の高まりを感じます。2022年度はがん検診、人間ドック、健康診断で、県内全域から約3万1000人が受診しました。その中でB型、C型肝炎の検査結果を見ると、B型は30代以下が皆無で、中高年に多く見られます。C型は特効薬が2015年に登場したこともあり、激減しています。B型はウイルス感染が原因ですが、かつて注射針を交換しないまま集団予防接種が行われ、そこでウイルスに感染した方が全国で約40万人います。さらにご自分の感染を知らないまま他人に移している場合もあるので、健診はぜひ受けるようお願いします。

長谷川 肝臓病の初期疾患である脂肪肝について教えてください。

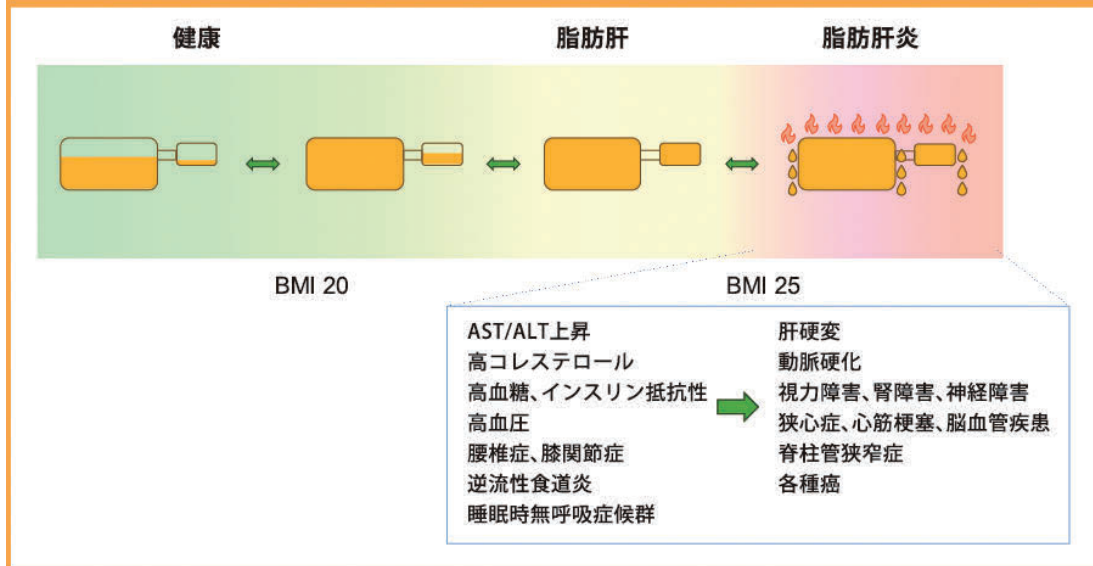
濱村 非常に多い病気です。原因は体質(遺伝)と生活習慣です。体の中で、脂肪組織は、燃料タンクのようなもので、肝臓は補助のタンクと言えます。タンクの大きさは、人それぞれですが、食べ過ぎるとどちらもいっぱいになり、溢れた燃料が燃え始め、慢性炎症を抱えることとなります。燃え始める目安は、BMIという肥満を示す指標で25前後です。慢性炎症は、長期間放っておくと、がんを含めた多くの病気の元となります。ですから、「油断大敵」ならぬ「肥満大敵」なのです。

肝がんについて

- ・厚生労働省の調査によると、日本では1年間に約3万5000人が肝がんで死亡。
- ・肝がんには肝臓から生じた「原発性肝がん」とほかの臓器のがんから転移した「転移性肝がん」がある。わが国では原発性肝がんのほとんどが肝炎ウイルスが原因。約70%がC型肝炎ウイルスに感染している人からの発症。B型肝炎ウイルスに感染している人からの発症もあわせると、全体の90%を占める。通常、肝がんは慢性肝炎から肝硬変を経て発症するが、**しかし、肝硬変を経ずに、慢性肝炎から肝がんが発生するケースも増えている。**肝がん自体による自覚症状は、ほとんどありません。B型肝炎とは、B型肝炎ウイルスの感染による肝臓の病気。
- ・B型肝炎ウイルスが肝臓に感染した状態で6ヵ月以上経過すると、B型肝炎ウイルス持続感染者となる。B型肝炎ウイルス持続感染者のうち約10%から20%の人に炎症が起き、慢性肝炎と発展する。
- ・B型肝炎ウイルス持続感染者の全員が肝臓病になるわけではない。しかし、**B型肝炎を発症した場合、放置するとやがて肝硬変や肝がんへと移行することがある。**
- ・B型肝炎ウイルスの主な感染経路は、感染者からの血液です。血中のB型肝炎ウイルスが多い場合は、体液から感染するケースもある。年間約10,000人の新規感染者がいるとされ、決して珍しい病ではない。
- ・感染は母子感染や性交渉による場合が多いが、子供のころの集団予防接種が原因でB型肝炎ウイルスに感染した方は約40万人いると言われている。自分自身が感染しているとは知らず、無自覚のまま感染を拡大させているケースも認められる。

・日本肝臓病学会：肝がん白書(令和4年度) ・厚生労働省HP、国立がんセンターがん統計 などによる

肥満大敵(ひまんたいてき)



古賀 当センターの人間ドック受診者の生活習慣病関連の結果を調べました。男性の場合、50歳をピークに20~30%の方がBMIが25以上でした。女性は男性より少ない傾向です。ほかALT、ASTが「要経過観察」となるのは、50~60歳がピークです。男性は女性の倍以上多く、要因には飲酒や脂肪肝が挙げられます。

脂肪肝の判定には腹部超音波（エコー）検査が行われます。通常は暗い色ですが、脂肪肝になると画像に明るく白く映り「ブライトリバー（明るい肝臓）」と呼ばれます。エコー検査を行うと4人に1人が脂肪肝と診断され、その多さがご理解できることでしょう。患者数は全国で1000万人以上いるとされ、肥満やメタボリックシンドロームの患者さんの増加に伴い、脂肪肝の患者さんも増えているのです。

長谷川 脂肪肝は非常に多い病気なのですね。さて、本日の参加者から「脂肪肝とアルコールの関係」について、多くの質問が挙がっています。

濱村 飲酒との関連は皆さん気になりますよね。厚生労働省では1日の飲酒量の指標を出しています。純エタノールに換算し、男性は1日40g、女性は20gで、それを超えると健康上のリスクが高まります。例えばがん発症率。肝臓がんは1.8倍、大腸がんは2倍、食道がんは4.6倍です。飲むと顔が赤くなる、いわゆるお酒に弱い人や女性は同じ量を飲んでも肝硬変や肝がんになりやすくなります。しかし、病院に来られる患者さんの多くは、すでに肝硬変や肝がんを患っています。患者さんの視点で見れば、「飲まなければ良かった」「食べ過ぎなければ良かった」と後悔している方ばかりです。もちろん、喫煙もそうです。それでも飲みたい場合は、検査数値でAST、ALT、 γ -GTPをみます。肝臓の弱い人は少量の飲酒でも肝障害が現れますが、肝臓の強い人は現れません。これらを目安に限度を決めて、たしなんでいただければ良いと思います。

長谷川 つい食べ過ぎ、飲み過ぎる方は多いと思いますが、飲まないに越したことはない、何事もたしなむ程度に楽しむことの大切さを改めて痛感しました。

結論

- ・ 飲酒・喫煙・肥満を避けるに越したことはない。
- ・ 飲酒をする場合は、個人のリスクを評価→肝障害(AST、 γ -GTP上昇)が現れない程度に。
- ・ 肥満の場合は、ALTが上昇しない程度に。

SBS静岡健康増進センター座談会 教えて!健康

テーマ 知って防ごう! 肝臓病

第2部 肝硬変、肝がんになったら

第1部では肝臓の働きや肝臓病の初期段階について詳しく聞きました。肝臓に脂肪が蓄積する脂肪肝が進行するとどうなるのでしょうか。パネリストの医師に引き続き伺っていきます。

〈企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局〉

症状出にくい肝がん、制度利用し検査を

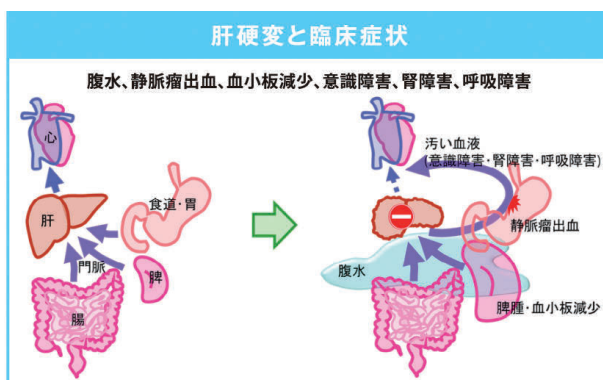
長谷川 第2部では肝硬変や肝がんについて伺います。まず肝硬変とはどんな病気でしょうか。

濱村 慢性肝炎を放置すると肝臓が硬くなり、肝硬変に移行します。ただ、肝硬変になっても、しばらく自覚症状は出ません。C型肝炎の場合、症状が出ない「代償期」を40年以上経て、非代償期の肝硬変に至ります。正常な肝臓は柔らかいですが、肝硬変になるとでこぼこ、カチカチになって、肝臓の中を血液が通りにくくなってきます。そこで、血液が迂回路（うかいろう）を作って通るようになるのですが、そこに食道や胃があるため、静脈瘤（りゅう）が発生、破裂します。この時点で、突然吐血して初めて肝硬変が判明する人がとても多いです。肝臓が血液を通しにくいので、門脈の圧力が高くなって、血液の血しょう成分が血管から漏れ出し、腹水が起こります。この二つが初期の症状です。さらに進行すると、黄疸（おうだん）や意識障害（肝性脳症）などの症状が出てきます。例えば、C型肝炎を放置すると、肝の線維化は10年ごとに1段階ずつ進みます。しかし、治療でウイルスを取り除くと、3年ごとに1段階ずつ戻っていきます。このことから、肝硬変になっても原因を取り除けば治る方向に向かうということが分かります。

肝がんになりやすい人は肝臓が硬い人、男性、高齢者です。高齢者に多いのは罹患（りかん）期間が長いからとも言えます。飲酒をすると、さらにがんの危険が増します。C型肝炎は治療をすると、がんの危険が5分の1に減ります。肝炎の原因を除く重要性が改めて理解できます。

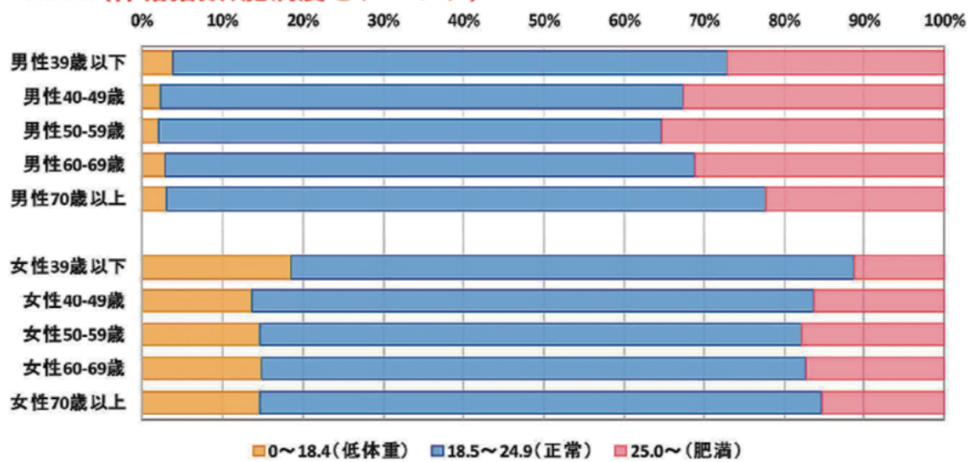
古賀 「肝硬変診療ガイドライン」によると現在、B型、C型肝炎は非常に減ってきています。その一方、アルコール性肝炎や脂肪肝は増加中です。この傾向は当センターの受診者データとも一致します。それだけに、人間ドックや健診の必要性をより強く感じます。

「お酒を飲まないのに、なぜ肝臓が悪くなるの?」。このような質問が受診者から寄せられます。肝硬変にはアルコール性と非アルコール性があって、お酒を飲まないのが非アルコール性です。さらに非アルコール性は脂肪肝と脂肪肝炎（NASH）に分かれます。このNASHが結構厄介で、年月とともに肝硬変、肝がんに行進していくのです。そこで診断された方は、経過観察が大事になってきます。

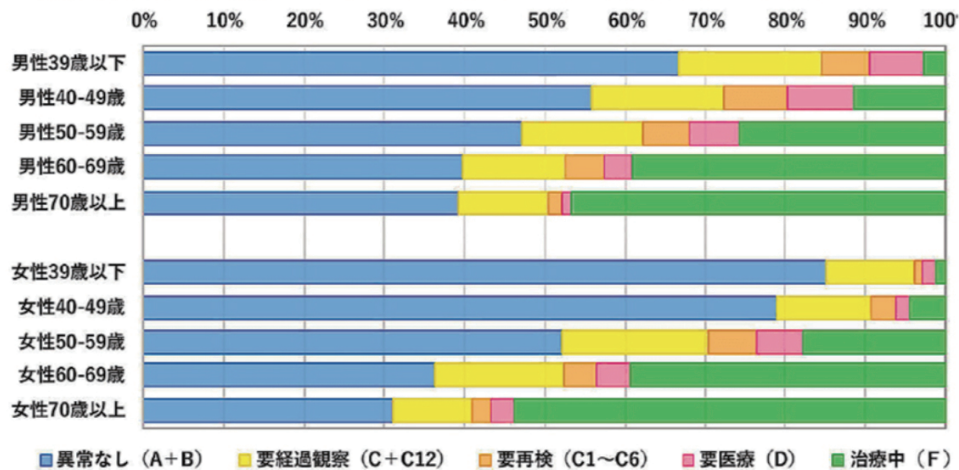


人間ドック受診者の生活習慣病関連項目の判定結果

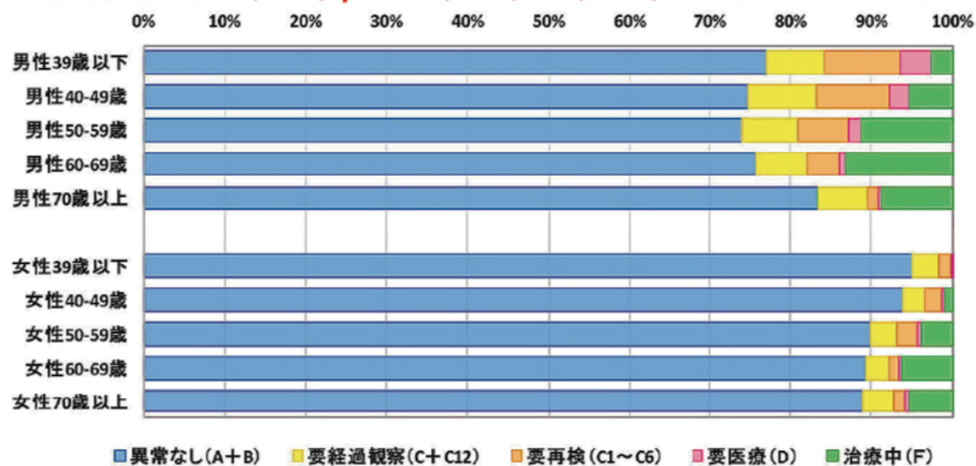
1. BMI (体格指数、肥満度をチェック)



2. 脂質判定 (コレステロール: LDL-C, HDL-C, TGなどのチェック)



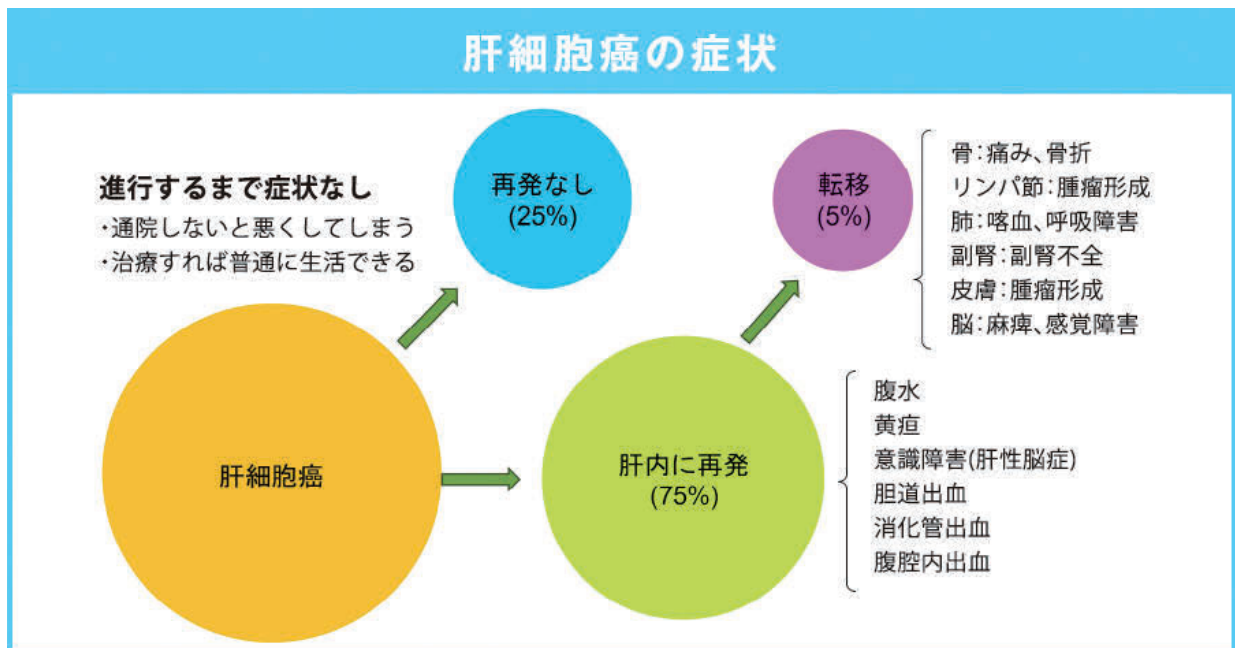
3. 肝機能判定 (AST, ALT, γ-GTP, ChE, ALB, HBV, HCVなどのチェック)



出典: SBS静岡健康増進センター

濱村 肝がんは進行するまで症状はありません。そのため、病状が悪くても、自分では気がつかない点が怖いところです。しかし、見方を変えて、きちんと通院して治療をすれば普通に生活ができる考えると、むしろそれは良い点と言えます。肝がんになっても、およそ20%の患者さんが10年以上生存できます。とくに、C型肝炎、B型肝炎の治療が進歩しており、がんが再発しない患者さんも増えています。肝がんは骨、リンパ節に転移することが多いのですが、胃がん大腸がんに比べると珍しく、約5%です。それ以外は肝内に再発します。肝内で再発が進めば、腹水、黄疸、意識障害などの肝不全症状が現れます。消化管出血、胆道出血、腹腔内出血を起こすこともあります。

治療は外科手術、ラジオ波やマイクロ波による焼灼、カテーテルによる動脈塞栓（そくせん）術、抗がん剤を使います。病巣が小さく数が少なければ（3センチ以内、3個以内）、おなかを切らなくても治療ができます。これを、大きさを超える場合は手術、数で超えればカテーテル治療を行います。さらにはがんが進行し、病変が大きいつき、血管への侵入、骨転移が起こると、全身化学療法が必要になります。切除が容易で肝機能が悪い場合には、肝移植を検討することもあります。



長谷川 もし肝硬変、肝がんになった場合、治療費が気になります。これらの疾患には公的な医療費の助成制度が適用されるそうですね。

後藤 静岡県では国の助成制度を県内の患者さんに提供しています。肝硬変や肝がんの原因の6、7割は、B型肝炎やC型肝炎のウイルス感染です。そこで、このウイルスに感染しているか否かの肝炎検査を一生に1回は受けましょと県では啓蒙しています。40歳の節目の年などに市や町で行う住民健診や、保健所・医療機関でも無料で肝炎ウイルス検査ができます。そこで陽性と判定されたら、ぜひ精密検査を受けてください。陽性と分かった初回の精密検査の費用のほぼ全額が助成される制度があります。さらに年2回の定期検査も助成対象となります。また、肝炎や肝硬変、肝がんの治療後、再発を懸念した定期検査に関しても、年2回までは所得に応じて自己負担額が発生しますが、かなり検査費用を抑えられる制度もあります。B型、C型ウイルス性肝炎の治療には高額な薬が使われています。この治療費も患者さんの所得に応じて、自己負担額が最大でも月1万～2万円で治療ができる制度があります。また、肝がんや重い肝硬変になって、その原因がウイルス性の肝炎だった場合にも助成制度が適用されます。これも自己負担額は月1万円までが上限です。検査や治療について本県は助成制度を通して支援を続けます。

B型・C型肝炎ウイルス検査 無料実施

- ・40歳など節目年齢に市町の住民健診で**無料**検査
- ・それ以外の年齢の希望者は、保健所や委託医療機関で**無料**検査

初回精密検査 費用助成

- ・肝炎ウイルス検査陽性判明後の最初の精密検査(血液、エコー)の費用を**ほぼ全額助成**

定期検査 費用助成

- ・検査陽性判明後や、肝炎・肝硬変・肝がんの治療後の定期検査費用を**年2回まで助成**
- ・血液、エコー、場合によりCT、MRIが対象、所得により自己負担額あり

ウイルス性肝炎 治療費助成

- ・**B型・C型慢性肝炎・肝硬変**の治療費を助成(所得により自己負担額が**月1万円か2万円**)

肝がん・重度肝硬変 治療費助成

- ・**B型・C型肝炎ウイルスを原因とする肝がん・重度肝硬変を長期間治療**している方が対象
- ・肝がんは入院・外来とも対象、肝硬変は入院のみ対象(高額所得の方はともに対象外)
- ・高額療養費の自己負担額が**月1万円**になる

長谷川 患者さんの検査、治療を厚くカバーしてくれる、このような制度を知っておくのは大事なことです。

後藤 県のデータによれば、肝炎の初回精密検査の件数は少し減っていますが、治療前、治療後の定期的な検査については、C型肝炎の治療者が減ったためか、減少しています。2019年からは重度肝硬変、肝がんの方の治療をサポートする制度も始まりました。これらの患者数は増加傾向になっています。2022年には、本県におけるB型肝炎、C型肝炎の治療は、年間でB型が2000人、C型が300人が助成を受けている状況です。

SBS静岡健康増進センター座談会 教えて!健康

テーマ 知って防ごう! 肝臓病

第3部 大切なのは健康づくり ～健診を意識して～

「沈黙の臓器」ともいわれる肝臓の病気は知らない間に進行している恐れがあります。誰しも病気にはなりたくないですが、どのようなことに注意して生活すればいいのでしょうか。パネリストの医師に予防などについて伺います。

(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)

減量、運動、検査数値確認を心掛けて

長谷川 第1部、2部では肝臓の働きや病気、本県が行う助成制度などについて伺ってきました。第3部では肝臓に良い食生活、運動、健康診断や人間ドックの結果の見方などを学びます。

濱村 脂肪肝の治療で一番大事なのは減量です。非アルコール性脂肪肝患者で体重を3～5%減らせば、肝の脂肪化が改善し、7～10%減らせば、肝の線維化が改善するとされています。食事の内容は「地中海食」のような食物繊維や不飽和脂肪酸の豊富なものが推奨されることがあります。また、運動はサイクリング程度の有酸素運動を週3～5回、計150～200分を目安にします。近年では薬を使った脂肪肝の治療もあります。たとえば、糖尿病を持つ脂肪肝の患者さんには、SGLT2阻害薬やGLP1受容体作動薬が使われることがあります。自分の肝臓の状態を知るために、健診や人間ドックは非常に大切です。通院中の人も肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧などともにALT上昇が見られる場合は腹部超音波検査を行います。脂肪肝と診断されたら、肝の線維化の状態を種々の方法で調べ、線維化があると判断された場合には、専門医を受診します。

脂肪肝の治療

食事と運動

・減量

体重の3～5%:肝脂肪化の改善
7～10%:肝線維化の改善

・食事

地中海食:野菜、果物、ナッツ類、オリーブオイル、
魚介類が豊富
総カロリー摂取の制限が重要

・運動

5～6メッツ*の有酸素運動を週3～5回
合計150～200分

*サイクリング程度の運動。1メッツは、安静時のエネルギー消費量。

薬物

・経口薬

チアゾリジン薬 (糖尿病:インスリン感受性改善)

SGLT2阻害薬 (糖尿病:ブドウ糖を尿から排出)

GLP1受容体作動薬 (糖尿病・肥満:食欲抑制)

ビグアナイド系 (糖尿病:脂肪合成抑制)

スタチン系 (脂質異常症:ALT低下、肝組織改善)

フィブラート系 (脂質異常症:インスリン感受性改善)

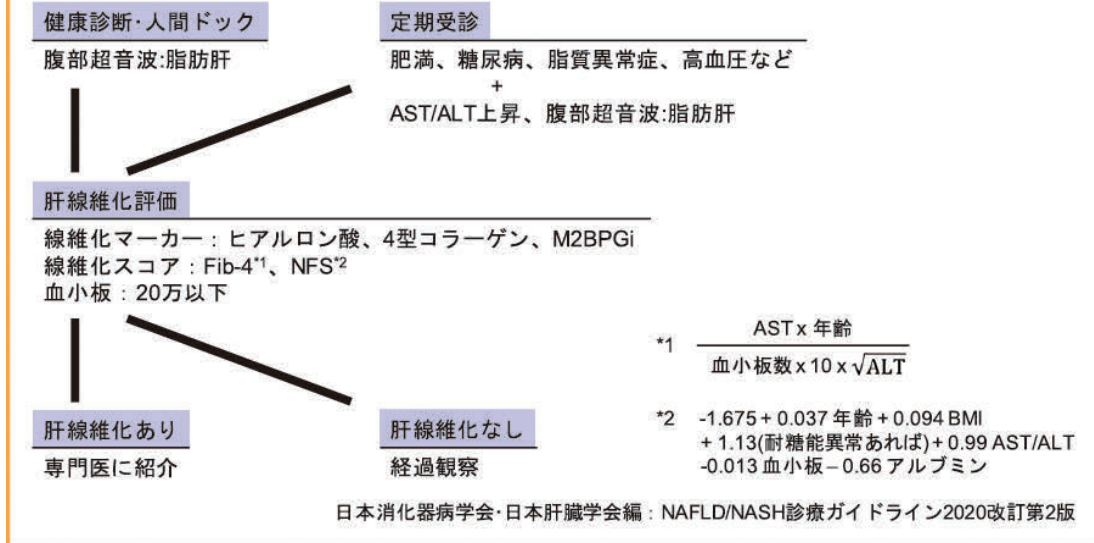
エゼチミブ (脂質異常症:コレステロール吸収抑制)

アンギオテンシンII受容体阻害薬

(高血圧:肝線維化抑制)

ビタミンE (抗酸化作用)

脂肪肝のスクリーニング



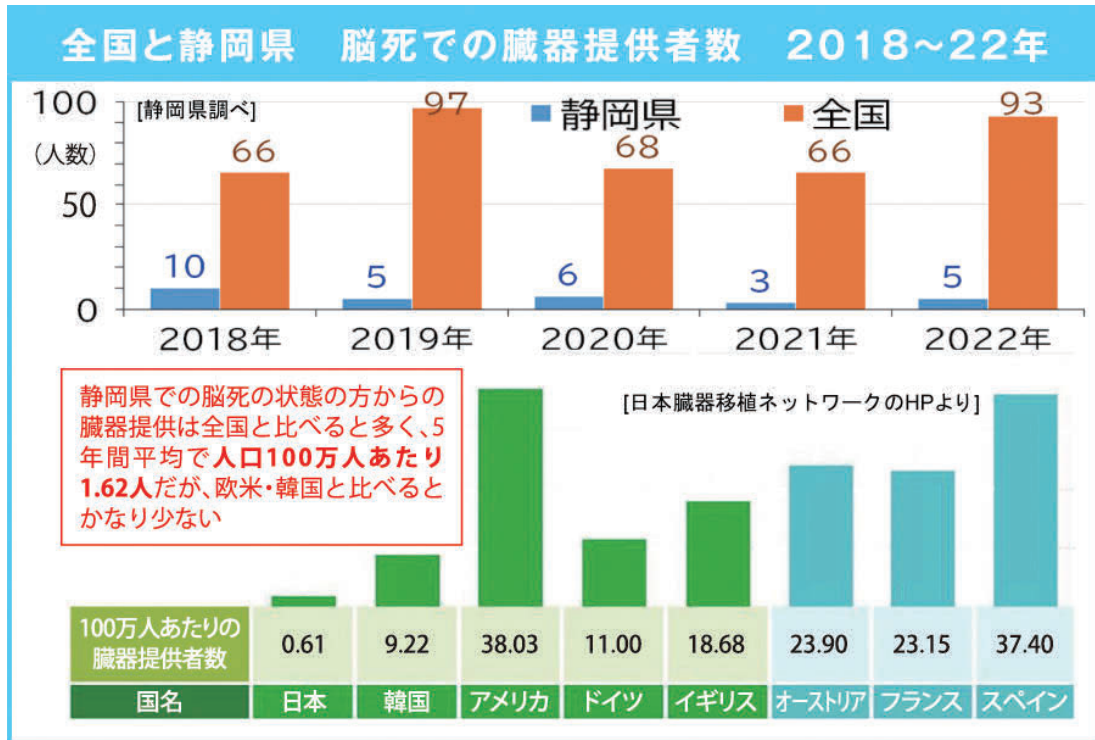
長谷川 ALT30という数字が出ましたが、健診の際にチェックしていきたいものですね。ところで本県では、肝臓病の対策や患者支援は行っているのでしょうか。

後藤 静岡県では「肝硬変や肝がんになる県民を減らす」ことを目標に掲げ、「肝炎対策推進計画」を6年ごとに更新しています。次期はちょうど今年4月から始まりますが、脂肪肝なども含んだ肝疾患全体の計画に拡大します。「肝炎の正しい知識を広め、肝炎ウイルス感染を予防」「肝炎ウイルス検査と、検査陽性者への受診の勧奨」「身近な地域で医療提供体制の確保」「患者と家族への支援の充実」「脂肪肝やアルコール性肝疾患の予防啓発とALT高値の人への受診勧奨」といった5本の柱で実施してまいります。

古賀 肥満度を表すBMIの指数が25以上の方は注意してください。LDLコレステロールや中性脂肪が高い方も脂肪肝になりやすいので油断はできません。肝臓の検査としてはAST、ALT、 γ -GTPの三つが重要です。当センターでも前述の「ALT30」を活用し、早期に肝臓の疾患を見つけていくことを目指しています。脂肪肝は肝硬変、肝がんに進行する場合があります。半年に1度ぐらいの間隔で、超音波や血液検査で定期的にチェックしていきましょう。BMIが25～26になると、さまざまな病気を併発しやすくなります。人間ドックや健診は肝臓病以外の生活習慣病も見つけることができます。早期発見できれば、予防や早期治療につながれますし、医療費の削減にもなります。ご自分で自覚できない症状や忍び寄る病気を見逃さないためにも、血液検査は非常に有効です。また、定期的な健康チェックが行えるかかりつけ医を持つことも、ぜひご考慮ください。

長谷川 治療、助成、食事、運動、健診の大切さを伺いましたが、それ以外に私たちが予防や治療のためにできることはありますか。

後藤 肝臓をはじめとするいくつかの臓器では、移植しか治療がない病気があります。先日国内で子どもの患者さんに家族から肝臓と肺を同時移植して成功したニュースがあったばかりです。実は本県は脳死となった方からの臓器提供者数が全国平均より多いのです。とはいえ、海外諸国と比較すると、日本はまだまだまだ多くありません。人口100万人あたりの臓器提供者が日本は0.61人ですが、アメリカは38.03人、韓国も9.22人と大きな差があります。1人の脳死になった方が臓器提供をしていただくと、10人近い方の命が救われる場合もあります。大切な命をつないでいくためにも、運転免許証やマイナンバーカードに臓器提供のご意思の有無をぜひ記載してください。進行した肝がんであっても、肝臓移植という治療ができる場合があります。



濱村 日頃患者さんたちと接していて切実に感じるのは、「お酒、たばこ、太りすぎに注意していれば良かったのに（節制）」「健診を受けていればもっと早く病気が見つかったのに（健診）」「病気や薬のことを知っていれば、悪くしないで済んだのに（知識）」という思いです。お医者さんに「お任せします」というのではなく、日常生活の中で、「自分自身で健康を管理しよう、病気を治そう」という意識を持つことが大切です。「節制」「健診」「知識」は、肝臓だけでなく、すべての病気の予防と治療に役立ちます。

長谷川 お勤めている方は職場での健診がありますが、高齢者や自営業、主婦は自ら意識して人間ドックや健診を受ける必要がありますね。

肝臓の病気を予防するには

節制	健診	知識	ワクチン
飲酒 食べすぎ 喫煙	AST、ALT HBs抗原 抗HCV抗体 定期的なエコー検査	自分の健康は自分で 管理するという意識 お医者さん任せにしない(神様ではない)	B型肝炎 A型肝炎

**「節制」「健診」「知識」は、すべての病気の予防に役立つ。
 B型肝炎ワクチンは最近普及し始めた。**

健診・人間ドックの意義

- ・健康診断・人間ドックは、生活習慣病(高血圧、肥満、脂質異常症、脂肪肝、肝障害、腎障害、糖尿病、高尿酸血症、ガンなど)をはじめ、さまざまな病気の早期発見・診断することで早期治療はもちろん、病気そのものを予防することを目的に実施されている。早期発見・早期治療で完治、医療費の削減等を目指す。
- ・自分では自覚できない症状や忍び寄る病気を見逃さないためにも、定期的な受診・検査(血液検査：CBC(血算)、AST/ALT/γ-GTP、腹部エコーなど)が必要である。
- ・かかりつけ医をきちんと受診しながらまた連携して毎年、人間ドック・健診を受けることをお勧めします!!

後藤 繰り返しになりますが、肝臓の病気には医療費の助成制度がありますので、ご活用ください。さらに知識も大事です。自身や家族がB型、C型肝炎検査をしたかどうかの確認もしましょう。まだ行っていなければ、自治体の健診や保健所・医療機関で検査を一度はしていただきたい。B型、C型肝炎は治療で肝硬変や肝がんへの進展を防ぐことが可能です。

古賀 本日は肝臓について専門家の先生方の話を聞いて、私も非常に勉強になりました。この知識を有効活用し、さらに人間ドックや健診も忘れずに行いながら、今後皆さんが長生きできる一つの手助けになればと願っております。